

2025 年大阪・関西万博 出展参加基本構想

令和 3 年 3 月

大阪府・大阪市

目 次

1. 出展参加の背景と意義
2. 出展参加でめざすもの
3. 出展参加のテーマ
4. テーマ展開の方針
5. 出展参加の主体
6. コンテンツ等の基本的考え方
7. パビリオンの構成等
8. 施設の位置及び規模
9. レガシー

1. 出展参加の背景と意義

近年、人工多能性幹細胞（iPS 細胞）に代表されるライフサイエンステクノロジーや、人工知能、ロボティクスなど、革新的な技術は長足の進歩を遂げています。かつてないスピードで私たちを取りまく環境が変化するなかで、私たちには、幸福とはなにか、自らのポテンシャルを最大限発揮するためにはどうすべきか、それを支える社会はどうあるべきか、という問いが投げかけられているといえるでしょう。

一方、世界に目を向けると、持続可能な開発目標（SDGs）として国連が提唱する、世界が直面するグローバルな課題を乗り越え、「誰一人取り残さない」社会を実現していくにはまだまだ道半ばと言えます。

こうした課題認識のもと 2025 年の大阪・関西万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに設定し、人間一人ひとりが自らの望む生き方を考え、それぞれの可能性を最大限に発揮できるようにするとともに、こうした生き方を支える持続可能な社会を国際社会が共創していくことを推し進めることを目指しています。

2020 年、新型コロナウイルスの感染拡大により世界中で多数の死者・感染者が出ました。人類に大きな試練を与えると同時に、「いのち」の大切さを考えさせられる出来事となりました。この感染症との闘いにおいて、日本では全国に緊急事態宣言が発せられ、外出自粛が広がる中、企業におけるテレワーク、学校教育でのオンライン授業、医療現場でのオンライン診療など、新たな社会システムへの変化の兆しがでてきました。こうした動きを感染症対策として終わらせることなく、誰もが暮らしやすい社会の構築や生活の質（QOL）の向上につなげていくことが求められています。

大阪・関西万博の開催都市である大阪は、かつて、全国の米、特産物が取引され「天下の台所」と称され、優れた食文化を築き上げてきました。現代は、最先端のライフサイエンス研究拠点や、高い生産技術力を有する中小企業が集積しています。さらに、大阪人は持ち前の「進取の気質」により、これまで世界に先駆けて先物取引市場の開設や世界の食文化を変えたインスタントラーメンなど、新たな社会システムや産業、製品等を数多く生み出してきました。また、民生委員制度のもととなるしくみ（方面委員制度）は大阪から全国へ普及し、日本発のボランティアセンターは大阪で設立されるなど、民の力が社会を支える仕組みも大阪発で発展したものです。このように大阪は、大阪・関西万博のテーマを実現していくうえで、なくてはならない知恵と技術力、行動力を有しています。

さらに、世界の国々が一堂に集まる万博にオール大阪として出展することは、大阪のポテンシャルの世界的なアピール、魅力発信につながるとともに、協働するパートナーが万博開催を通じて多様な分野で融合することで生じる新たなイノベーションの創出及び人々の生活の質（QOL）の向上が期待され、ひいては大阪の都市としての成長・経済発展に寄与するものとなります。

2. 出展参加でめざすもの

大阪・関西万博の開催目的を踏まえ、開催都市・大阪は、オール大阪の知恵とアイデアを結集させ、訪れた人々が「いのち」や「健康」、近未来の暮らしを感じられる展示を実現するとともに、大阪という都市の活力・魅力を世界のより多くの人々に伝えていきます。

とりわけ、「いのち輝く未来社会のデザイン」という大阪・関西万博の開催テーマには、国連が掲げる 2030 年の「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成にとどまらず、+beyond (2030 年より先) への飛躍の機会となる期待が込められています。開催都市として、世界の先頭に立って SDGs の達成に貢献するため、「SDGs 先進都市」の姿を明確にし、新たな取組みの創出を図り、SDGs 達成目標の 2030 年以降を見据えた取組みを世界に発信していきます。

来場者が、開催都市・大阪が出展するパビリオン等に参加し、体験や共創を通じて、深く心に記憶されることを目指し、次の取組みを実現します。

(1)世界に貢献する大阪の姿を示す

パビリオンにおける展示によって、超高齢化社会の到来を見据えた人々の生活の質 (QOL) の向上、SDGs 達成目標の 2030 年以降を見据えた将来像、誰もが心身豊かに快適に暮らしやすい未来社会のモデルを創造し、発信します。

◇生活の質 (QOL) を向上させる展示

人々が健康寿命を延ばし、「10 歳若返り」を感じられるなど心身ともに健康で生涯にわたり生き生きとした生活を送れるよう、生活の質 (QOL) を向上させる展示を実現し、世界に発信することを目指します。

◇SDGs 達成に貢献する姿を示す

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる万博において、地元開催都市として「いのち」に対する価値観や考え方が地元パビリオンを訪れる前後で大きく変わる、SDGs 達成目標の 2030 年以降を見据えて取り組む大阪の姿勢を示し、世界に発信することを目指します。

◇未来社会のモデルを提案

新技術やサービスなどを実装・実証し、誰もが心身豊かで快適に暮らしやすい未来社会のモデルを創造し、提案できる取組みを目指します。

(2)大阪のパワーを世界に発信

パビリオンにおけるイベント・催事によって、年齢、性別、国籍や文化を越えて世界中の人々が最先端技術を駆使した参加・体験型のエンターテインメントをリアルとバーチャルで体感し、交流する空間を演出し、大阪のパワーと魅力を世界に発信します。

◇世界中からのアクセスを実現

万博会場に来られない方でも、最先端の ICT 技術を活用したバーチャル参加など、

世界中からパビリオンへのアクセスを実現するとともに、パビリオンを訪れた方にもバーチャル技術などを駆使し、大阪の未来の姿やパワーを感じてもらえる取組みを目指します。

◇大阪の魅力を世界に発信

人の温かみや人情、コミュニケーション能力の高さなど、大阪ならではの「人そのものの魅力」や天下の台所・食い倒れと表現されてきた「大阪の食文化」などの魅力を世界に発信し、大阪と世界との交流を巻き起こす取組みを目指します。

3. 出展参加のテーマ

メインテーマ : **REBORN**

大阪・関西万博に地元大阪が出展参加するにあたってのテーマはREBORNです。このテーマには“「人」は生まれ変わる”、“新たな一步を踏み出す”という意味を込めています。

“「人」は生まれ変わる”

私たちの誰もがこの世に生まれ、人生を歩む中で、日々様々な出会いや発見をくり返しながら「人」として成長し、年齢を重ねていきます。一人ひとりがいきいきと豊かな人生を送るためには、自分に合った価値観や生き甲斐を見出すことが大切です。

万博開催を機に、すべての「人」が自分らしい生き方をあらためて見つめ直すことで、自分自身の価値観や生き甲斐の発見・再認識、自己実現への意欲・意識の変革を促し、新たな自分への「生まれ変わり」に貢献する取組みを展開できればというものです。

“新たな一步を踏み出す”

人は自分が頼りにされている、何かの役に立っている、と感じると、やり甲斐を感じるのではないのでしょうか。家族の一員として、地域の一員として、国民として、地球市民として、今自分に何ができるかを再認識し、勇気をもって行動につなげていくことができれば、やり甲斐を実感し、それが活動の新たな原動力となって、世界中のあらゆる世代の「人」にとって素晴らしい世界が実現していくのではないのでしょうか。

一人ひとりの意欲・意識の変革が具体的な行動変容へとつながり、より良い生活環境、暮らしやすい社会創りに貢献し、「いのち輝く未来社会」に新たな一步を踏み出すきっかけになればというものです。

4. テーマ展開の方針

わが国では、目指すべき未来社会の姿として、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の快適で質の高い生活、活力ある社会、いわゆる Society5.0 が提唱されています。

出展にあたっては、私たちが掲げるテーマ「REBORN」のもと、「健康」という観点から未来社会の新たな価値の創造に取り組めます。また、「知る・感じる」「体験できる」「みんなで参加できる」という視点から、展示やイベントを通じ本博覧会の3つのサブテーマ、「Saving Lives (いのちを救う)」、「Empowering Lives (いのちに力を与える)」、「Connecting Lives (いのちをつなぐ)」にアプローチします。

(1)生活の質（QOL）の向上に資する新たな価値創造

大阪府・大阪市では、誰もがいきいきと活躍できる健康寿命の延伸と「10歳若返り」の実現を目標に掲げ取り組みを推進しています。

2020年の新型コロナウイルス禍は、未解明の感染症の世界的な拡大の事態となり、私たちの生活や社会経済に甚大な影響を与えました。

この経験も踏まえ、「健康」の観点からの最新の技術を活用したイノベーションにより大阪発の新たな価値を創造し、最先端の医療や幸福な生き方のできる未来社会を具現化します。

(2)生き活きと元気に楽しく生きる提案

国籍や言葉が違っても、暮らす場所や生き方が違っても、仕事や趣味が違っても、「生き甲斐」、「やり甲斐」を感じながら、日々の暮らしを生き活きと元気に、楽しく過ごしたいとの願望は、老いも若きも同じです。

「いのちに力を与える」「いのちをつなぐ」という視点から、「自分自身を見つめなおす」、「自己実現意欲を高める」、「自分らしい生き方を再認識・再発見する」、そのような体験を提供します。

(3)サイバーとフィジカルが融合した新しい社会を提案

近年、人工知能（AI）、IoT、5G高速回線の実現等、最先端技術の進展に加え新型コロナウイルス感染症への対応により、ライフスタイルそのものを大きく変えていこうという動きが、世界の潮流となりつつあります。

地元パビリオンにおいては、フィジカルな空間からサイバー空間に集積された健康・医療データを人工知能（AI）が解析し、IoT、ロボティクスなどの活用による新しい健康・医療を提案します。

また、パビリオンでのリアルな体験に加え、世界中の人々がアクセスできるバーチャル空間のより効果的な活用や工夫を凝らした展示などによる新たなエンターテインメントの創出や交流の場の提供など、新しい社会を提案します。

5. 出展参加の主体 ～産学官民の力を結集～

来場者に感動と貴重な経験を与えるパビリオンとするためには、地元大阪の様々な機関、団体が結集、協働し、計画段階から出展・運営まで一貫して取り組むことが大切です。

このため、大阪府、大阪市に加え、経済界をはじめ、医療機関や大学、観光 DMO、文化振興団体など、多様な主体が参画するオール大阪の推進体制を構築し、出展参加の計画段階から大阪・関西万博の閉会まで、府民・市民の参加と協力も得ながら、一丸となって取組みを推進します。

(1)産…産業界・企業之力

大阪には進取の精神を受け継ぎ、日本経済の発展に大きな役割を果たしてきた企業が少なくありません。現在も、自由で個性的、バイタリティのある人材が集い、大阪商人のスピリッツが受け継がれています。そうした人材や企業が持つ知恵と技術力を結集させ、新たな価値を生み出す舞台が大阪・関西万博です。

万博開催前から様々な共創やチャレンジを積み重ね、大阪の企業の誇りと実力を世界に示すことを目指します。

(2)学…教育・研究機関之力

大阪を中心とする関西は、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」と親和性の高い、ライフサイエンス、食、スポーツ、エンターテインメントなどの分野の先進地域であり、これらに関する研究機関や大学等が集積しています。

新型コロナウイルス禍を経験した今、未来の大阪を担う研究者や学生など若い世代の研究成果や知恵の国内外へのアピールの場、活躍の場となることを目指します。

(3)官…自治体之力

大阪府・大阪市においては、万博のインパクトを活かして、「世界一ワクワクする都市・大阪」の実現に向けた取組みを推進しています。イベント・催事の展開にあたっては、大阪府、大阪市はもとより、府内市町村も地域団体と連携し、各地のブランドやアイデンティティ、ポテンシャルの国内外へのアピール、団体との協力や準備のプロセスそのものが万博の機運醸成につながり、それぞれの地域の発展に寄与することを目指します。

(4)民…府民・市民之力

地元市町村と連携したイベント・催事への参加・協力の機会を、文化・芸術分野をはじめ積極的に活動する地域団体やその活動を支える府民・市民に提供します。参加・協力者にとって来場者との交流やネットワークの構築、自己実現の場となることを目指します。

6. コンテンツ等の基本的考え方

開催都市・大阪は、国及び2025年日本国際博覧会協会とともに大阪・関西万博を支えるパートナーです。万博のゲートウェイとなって、万博開催前から、本万博に関連する多彩なイベントを行うことにより、万博への参加の機運醸成に取り組めます。

万博会場におけるパビリオン等での展示・催事にあたっては、私たちが掲げる出展参加テーマ「REBORN」のもと、「健康」という観点から、大阪が持つ強みを活かして、最先端の医療技術やライフサイエンス産業が創り出す近未来への期待を高め、さらには食や文化、観光などによる交流を促進する場となるよう、多彩なプレーヤーと連携・協力し、来場者や、来場者を受け入れる私たちも、ワクワクしながら明るい未来を感じることができる展示・催事を実現します。

(1) 出展内容・コンテンツ

◇来場者の興味・関心を引き付ける

健康や医療について、来場者がどのような興味・関心を持ち、地元パビリオンでの展示やイベントに何を期待されるのかなどニーズ把握に努め、出展内容の検討を進めます。その上で、ストーリー性やメッセージ性のあるわかりやすい展示・演出によって“可視化”することで、“ワクワク感”を創出し、体験型・参加型の展示など、子供から高齢者まで幅広い来館者の感性に訴え、感動、共感していただけるよう工夫します。

◇インパクトある大阪発のメインコンテンツ

特に展示のメインとなるコンテンツは、健康・医療を切り口に大阪のポテンシャルを最大限発揮し、来場者に圧倒的なインパクトを与える内容となるよう、オール大阪の知恵を結集し、創意工夫します。

◇最先端技術の活用

人工知能(AI)やロボティクス、再生医療などの最先端技術を活用するとともに、明るい未来が感じられるサイバーとフィジカルが融合した新しい医療のあり方やアンチエイジングをはじめ、生き活きと元気に暮らせる新しい社会・ライフスタイルを提案します。

◇イノベーションを誘発

最先端技術を活用したコンテンツの創出にあたっては、企業や教育・研究機関が持つ研究シーズを発掘し、異業種間のアイデア・技術をマッチングするオープンイノベーションの手法を取り入れながら、新たな価値の創造に取り組めます。

◇バーチャル空間の効果的な活用

世界中の人々が万博開催前から大阪の出展内容を体験することができるバーチャル空間を設定します。バーチャル空間は、出展者と来訪者、あるいは出展者間の交流促進、共創のフィールドとしても活用し、2025年の本番には、そこで生まれた新たな技術や製品・サービスをリアルな場で展示できるよう取り組めます。

(2)表現方法

◇わかりやすさ

パビリオンの展示・催事の趣旨や内容を子供から高齢者まで、世界中から訪れる人々に容易に理解していただけるよう、新しいコミュニケーション技術も活用するなど、案内や解説にも工夫を凝らし、文字の説明だけでなく実物映像の展示を多用しわかりやすさを重視します。

◇大阪の独自性の発揮

大阪の最大の魅力である人の力を結集し、大阪の地で培われ、受け継がれてきた日本の伝統文化・和の心や、ユニークで進取の気風を活かしたエンターテインメント性の高い演出により、国内外から来場するすべての人を温かくお迎えし、万博における一期一会の出会いとおもてなしを体験していただけるよう取組みます。

◇言語の壁を乗り越えた交流

来場するすべての人が、言語の壁を乗り越えて、交流し、体験を共有し合える大阪ならではのコミュニケーションの場の提供に努めます。

◇環境への配慮

持続可能な社会の実現に向けたメッセージとして、パビリオン等での展示・催事にあたっては、SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」を踏まえ、廃棄物の発生抑制、再生利用及び再利用に取組みます。来場者に対しても、リサイクルやリユースの協力を呼びかけ、共に行動していただけるよう努めます。

7. パビリオンの構成等

パビリオンの構成としては、エントランス機能、出展テーマを展開する展示・体験機能、イベント・交流機能、大阪の魅力を発信し、開催都市として来場者をおもてなしするサービス・食体験機能など、下記に示す機能が必要となりますが、具体的な構成については、基本計画において検討します。

(1)エントランスゾーン

玄関口となるエントランスゾーンは、来場者に対し、これからはじまる非日常の空間や体験に対する期待感を醸成する場です。

「REBORN」をテーマにどのような展示や体験が待っているのかガイダンスを行いながら、来場者のワクワク感を高めます。また、来場者の円滑な誘導のための滞留空間としても機能します。

(2) 展示・体験ゾーン

パビリオンの中核となる展示・体験ゾーンは、テーマ「REBORN」のもと、大阪の強みを活かした最先端の医療技術やアンチエイジングをはじめとするライフサイエンス産業による QOL を高める生活様式に関する展示や体験を通じて、「健康」という観点から世界に貢献する大阪の姿を発信する空間を演出します。

(3) イベント・交流ゾーン

イベント・交流ゾーンは、世界中の人々が参加・体験型のエンターテインメントをリアルとバーチャルの両面で体験、交流することで、大阪のパワーと魅力を世界に発信する空間としての機能を演出します。

また、屋外も活用して、四季折々の大阪の祭り、食などの風物詩を体験いただける演出にも努めます。

(4) サービス・食体験ゾーン

大阪産の物品販売や大阪ならではの料理を味わえるなど、おもてなしの空間としての機能を提供します。

(5) 他の万博会場施設等における展開

2025年日本国際博覧会協会が万博会場内の催事施設などを活用したイベント等に地元大阪としても参加・協力していきます。

(6) バーチャル大阪館（仮称）

万博が開催される前に、バーチャル空間を活用した展示やイベントを展開する「バーチャル大阪館（仮称）」を開設し、大阪ゆかりの多様な主体の参加により、テーマ「REBORN」に沿った展示やイベント、交流、体験が行える空間を提供します。

8. 施設の位置及び規模

パビリオン施設の位置は、来場者が訪れやすい適切な位置を検討しています。

施設の規模については、基本計画の策定において、出展内容の具体化に併せ、検討していきます。

9. レガシー

大阪・関西万博への出展を一過性のイベントとして終わらせることなく、その記憶とともに万博閉会後もパビリオンの精神を後世に引き継ぐレガシーとして残していけるよう、今後の基本計画の策定作業においてハード・ソフトの両面について具体的な検討を進め、取り組んでまいります。

(1)ハードレガシー

ハードについては、その有効活用のあり方や活用主体、引き継ぎ方法などについて、基本計画策定と並行して検討整理します。

(2)ソフトレガシー

展示やイベント・催事で披露するコンテンツやノウハウ、パビリオン出展・運営体制や連携の枠組み、府民・市民の参加協力の仕組みや様々な体験、記録などについては、万博開催後の大阪の発展に寄与するものとなるよう取り組んでまいります。